

適用害虫と使用方法

2017年11月現在

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用 時期	使用 方法	総使用回数*	
						本剤	スピロテトラム
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	2,000	100~300 ℓ/10a	前日*	散布	3回	3回 (灌注は1回)
	アザミウマ類 トマトサビダニ	1,000	50ml/株	育苗期 後半	灌注	1回	
	アブラムシ類 コナジラミ類		25~50 ml/株				
なす ピーマン とうがらし類	アブラムシ類 コナジラミ類	2,000	100~300 ℓ/10a	前日*	散布	3回	3回 (灌注は1回)
	アザミウマ類 チャノホコリダニ ハダニ類	500	50ml/株	育苗期 後半	灌注	1回	
	アブラムシ類 コナジラミ類	25~50 ml/株					
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類	2,000	100~300 ℓ/10a	前日*	散布	3回	3回 (灌注は1回)
	アザミウマ類 ハダニ類	500	50ml/株	育苗期 後半	株元 灌注	1回	
	アブラムシ類 コナジラミ類	25~50 ml/株					
ズッキーニ	コナジラミ類	2,000	100~300 ℓ/10a	前日*	散布	3回	3回
ばれいしょ はくさい	アブラムシ類	4,000		7日*			
キャベツ ブロッコリー レタス	アザミウマ類	2,000~ 4,000					
アスパラガス	アザミウマ類 コナジラミ類	2,000					

※：散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用して下さい。
▲：みょうが(花穂)の収穫前日までに使用して下さい。但し、花穂を収穫しない場合は開花期終了までに使用して下さい。
*：印は収穫物への残留回避のため、その日までに使用できる収穫前日数と本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用害虫名	希釈 倍数 (倍)	使用液量	使用 時期	使用 方法	総使用回数*				
						本剤	スピロテトラム			
メロン すいか	アブラムシ類 コナジラミ類	2,000	100~300 ℓ/10a	前日*	散布	3回	3回 (灌注は1回)			
	アザミウマ類 ハダニ類	500	50ml/株	育苗期 後半	灌注	1回				
	アブラムシ類 コナジラミ類		25~50 ml/株							
かぼちゃ	アブラムシ類 ハダニ類	2,000	100~300 ℓ/10a	7日*	散布	3回	3回 (灌注は1回)			
いちご	アブラムシ類 コナジラミ類			前日*		500		育苗期 後半	灌注	1回
	アザミウマ類 ハダニ類			50ml/株						
	アブラムシ類 コナジラミ類	25~50 ml/株								
なし	ニセナシサビダニ	2,000	200~700 ℓ/10a	14日*	散布	3回	3回			
りんご	アブラムシ類 カイガラムシ類 ハダニ類			7日*						
もも ネクタリン 小粒核果類	アブラムシ類 ハダニ類	2,000	200~700 ℓ/10a	7日*	散布	3回	3回			
かき	カイガラムシ類			21日*						
おうとう	ハダニ類			前日*						
みょうが(花穂)	アブラムシ類	4,000	100~300 ℓ/10a	前日*	散布	2回	2回			
みょうが(茎葉)				▲						
チューリップ	チューリップ サビダニ	4,000	100~300 ℓ/10a	摘花後~ 球根掘取 り前まで	散布	2回	2回			

上手な使い方

- 吸汁阻害効果はないので、ウイルス感染阻止効果は期待できません。
- 遅効的な薬剤なので、害虫の発生初期に散布することで長期間密度抑制効果が期待できます。
- 成虫への効果は弱いので、殺成虫効果の高い薬剤との併用がおすすめです。
- ミツバチは、灌注処理後および散布翌日放飼が可能です。
- 灌注処理での使用時期「育苗期後半」とは育苗期間の後半から移植当日までを指します。なお、「定植3日前から当日処理」が最も本剤の性能を発揮できる処理時期です。

使用上の留意点

- マルハナバチに影響があるので、本剤使用後は他の方法(人工授粉、植物ホルモンなど)で受粉作業して下さい。
- いちごのチリカブリダニおよびミヤコカブリダニを使用する栽培場面では、灌注・散布いづれも処理後45日以上の間隔を置いて放飼して下さい。
- スワルスキーカブリダニを使用する栽培場面では灌注、散布いづれも処理後、約1か月程度間隔を置いて放飼して下さい。
- 軟弱徒長苗や極端にステージの若い苗(セル苗、プラグ苗)に灌注や株元灌注すると薬害を生じるおそれがあるので、本剤の使用は避けて下さい。
- なすにおける機能性展着剤との混用は、混用する機能性展着剤によって薬害を生じるおそれがあるので、事前に確認してから使用して下さい。
- はくさいに使用する場合には、曇天及び夕刻等の散布後に葉面上の薬液が乾きにくい条件で薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 本剤の同一圃場での連続散布は避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行って下さい。

注意事項

- 使用前に良く振ってから使用して下さい。
- 本剤を軟弱な苗に灌注又は株元灌注すると薬害を生じるおそれがあるので、注意して下さい。きゅうりに株元灌注する場合には、薬液が新芽にかかると縮葉等の薬害を生じる場合があるので、かからないように処理して下さい。
- 本剤をきゅうり、すいか及びメロンのセル成型苗に株元灌注又は灌注すると、薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- はくさいに使用する場合には、曇天及び夕刻等の散布後に葉面上の薬液が乾きにくい条件で薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
- 機能性展着剤を加用してなすに散布する場合、果実表面にくぼみ状の薬害が生じるおそれがあるので事前に薬害の有無を確認して使用して下さい。
- 水稲に本剤がかかると不稔などの薬害を生じる場合があるので、かからないように注意して下さい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意してください。適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 室に対して長期間毒性があるので、周辺の桑葉にかからないようにして下さい。
- 本剤はマルハナバチに影響があるので、本剤を使用する場合には他の方法で受粉作業(人工授粉、植物ホルモンなど)を行って下さい。
- 誤飲などのないように注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けて下さい。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗して下さい。
- 本剤使用の際は農作業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00, 13:00~17:00
土・日・祝日を除く

F-1053 17.11.1A

篠原商店でご購入される場合はこのページをクリック!

まったく
新しい作用性で、
やっかいな害虫も
見逃さない！



モベント[®]
フロアブル



チャノホコリダニ



トマトサビダニ



コナジラミ類



ハダニ類

新しい効き目で、
行き場なし。



アブラムシ類



アザミウマ類

- 難防除害虫に安定した効果
- 幅広い吸汁性害虫に有効
- 優れた浸透移行性
- 長期の残効性
- 1製剤で2つの使い方